

南極と環境

「南極で何がおきているの？ 南極で何しているの？」

日時 令和7年**10月13日(月)** 15:00~17:50

場所 名城大学 天白キャンパス 共通講義棟北 1F N101室(名城ホール)

参加費 無料

定員 600名(着席可能な人数)

概要 地球温暖化に伴い、北極と南極の氷の融解や各地での氷河の後退が発生しています。そのような気候状況の中、南極にておおよそ70年にわたり日本の昭和基地でいろいろな研究と活動が行われてきております。今回の講演では、3人の昭和基地での滞在経験をお持ちの先生方に南極の環境を踏まえて、昭和基地での観測などの活動、昭和基地での活動に伴う環境保全、さらには、昭和基地の生活体験についてもお話し頂けます。

内容

1. 開会 (15:00~15:05)

開会のあいさつ

小塩 達也 名城大学理工学部環境創造工学科 学科長(教授)

2. 講演 (15:05~17:15)

南極奥地での気候観測 ~温暖化の影響を捉える~ (15:05~15:45)

講師: 栗田 直幸 名古屋大学宇宙地球環境研究所 准教授(第60次、64次南極観測隊夏隊員)

内容: 本講演では、南極気象観測の歴史から地球温暖化影響を捉える最新研究まで、体験談を交えながらお話しします。

南極昭和基地における環境保全 (15:45~16:25)

講師: 塩原 大晟 三機工業株式会社環境システム事業部水エンジニアリング部(第64次南極観測隊越冬隊員)

内容: 第64次南極観測隊(2022~2024年)越冬・環境保全隊員としての経験を通して、昭和基地の環境保全への取り組みの変遷と現状をお伝えします。

休憩 10分 (16:25~16:35)

南極観測隊のしごと (16:35~17:15)

講師: 小塩 哲朗 名古屋市科学館学芸課 課長補佐(学芸員)(第56次、58次南極観測隊夏隊員)

内容: 南極観測隊とは?なぜ南極まで行くの?どんな観測や研究を行っているの?南極での生活はどんなもの?などについてお話しします。

3. パネルトーク (17:15~17:45)

パネリスト: 栗田 直幸氏, 塩原 大晟氏, 小塩 哲朗氏

司会: 小塩 達也

4. 閉会 (17:45~17:50)

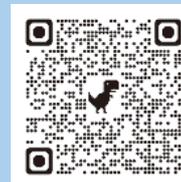
◆申込方法: 右のQRコードから登録いただくか、当日、受付にて氏名を記入して頂きます。

なお、事前申し込みの必要はありません。 <https://forms.gle/9yhm3rTUoebnXwwwz8>

◆申込締切: 談話会開始前に受付をお済ませください。

◆お問い合わせ先: 名城大学理工学部環境創造工学科

総務委員会委員 日比 義彦 Email: hibiy@meijo-u.ac.jp





名古屋大学宇宙地球環境研究所 准教授 栗田 直幸 先生

世界の平均気温が史上最高を更新するなど、地球温暖化の影響が身近になりましたが、この影響は(宇宙よりも遠い)南極奥地でも同様でしょうか?実は、この問いに答えるのは容易ではありません。冬季の気温が -70°C 以下になる南極奥地では気象観測の歴史が浅く、観測を継続することも困難です。しかし最新の研究成果から、南極奥地の温暖化の実態も明らかになりつつあります。本講演では、南極気象観測の歴史から地球温暖化影響を捉える最新研究まで、体験談を交えながらお話しします。

三機工業株式会社環境システム事業部水エンジニアリング部 塩原 大晟 先生

日本の南極観測が始まって約70年。国内同様、観測のための基地生活で必ず発生するのが汚水や廃棄物です。一方で、南極昭和基地における汚水処理や廃棄物処理といった環境保全への対応は、1991年を皮切りに強化されました。本講演では、第64次南極観測隊(2022~2024年)越冬・環境保全隊員としての経験を通して、昭和基地の環境保全への取り組みの変遷と現状をお伝えします。

名古屋市科学館学芸課 課長補佐(学芸員) 小塩 哲朗 先生

日本では、毎年南極観測隊を結成して南極へ送り込み、さまざまな観測を行っています。そもそも南極というのはどんなところなのでしょう?なぜ南極観測隊ははるばる南極まで行く必要があるのでしょうか?観測隊がどんな観測や研究を行っているのか、そして南極でいったいどのような生活を送っているのかについて、たくさんの写真を紹介しながらお話しします。